「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０１８年９月　第126号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集長／矢口元晴

道内初の「まちカレ」本学で

空知の魅力 全国に発信

國學院短大部が主催 各地から学生130人

8月24・25日の2日間にわたり、日本全国のまちづくりに関わる大学生が集まる「第23回全国まちづくりカレッジ in 空知」が、北海道で初めて本学にて行われた。台風20号の影響もあったが北は旭川大学から南は福岡の西南学院大学まで全21団体130名の参加があり、盛会のうちに終わることができた。

このイベントは、どうしても孤立しがちな地域活性化を目指し活動する学生たちが、それぞれの団体の活動内容やその成果・悩みを共有したり、交流を深めることによって各地域での活動を良いものにするために行われ、これまでは中部地方や西日本を中心に行われきた。本学の舛井ゼミでは、第19回の岐阜経済大学で行われたまちカレから参加している。

このイベントは一般的な学会とは異なり、学生の学生による学生のためのイベントであり、参加する学生、主催する学生のいずれもモチベーションを高めることができ、大きく成長できる素晴らしい機会となる。機会さえあればいずれは本学でもと思っていたが、短期大学が主催校になったことはなく、また北海道でも開催した実績はなかった。

しかし、昨年京都文教大学で行われたまちカレに参加した学生が、ぜひ主催校をやってみたいと申し出があったので、この学生たちなら実現できると思い、主催校に立候補した。主催校をやるつもりで伊勢の皇学館大学で行われたまちカレに10名ほどの学生と参加した。そのメンバーを中心に約60名の実行委員会を結成し、まちカレの準備を行ってきた。

24日には、本学にて開会式と各大学の情報共有を目的とした活動報告会や地域で活動する上での問題を解決するためのワークショップが行われた。また、夜には松尾ジンギスカンで懇親会が行われ、滝川発祥の味付けジンギスカンを各大学の学生たちに楽しんでもらった。翌25日には、江部乙、商店街、砂川、赤平の各地で4つのフィールドワークが行われた。これらのフィールドワークを通して舛井ゼミの活動内容を知ってもらうこと、空知のまちづくりを理解すること、そして空知の魅力について知ってもらうことができたと思う。

このようなイベントが開催できたのは、空知地域の皆様の温かいご協力があってのこと。記して感謝申し上げます。

俳句の魅力に触れる

滝川など3カ所でイベント 募集作品の批評も

9月15日から16日にかけて俳句に関する三つのイベントが行われました。

15日は小樽商科大学札幌サテライトを会場に、國學院セミナー「いますぐ詠める！俳句講座」で、講師は俳句・短歌に造詣が深い本学の月岡道晴教授が担当しました。参加者は少なかったものの、俳句づくりの基本から作句のポイントまで、初心者に手ほどきしていました。参加者からは、大変わかりやすかった、勉強になった、歳時記の重要性を理解できた等々の感想が寄せられました。

16日は午後1時から紀伊國屋書店札幌本店1階のインナーガーデンで、「俳句ガーデン」を行いました。今回で3回目になり、ゲストに北海道新聞に「札幌モノローグ紀行」を連載中の歌人山田航氏、ホストに又吉直樹氏と共著のある俳人堀本裕樹氏を招いて、本学の月岡道晴教授（北海道新聞に「新北のうた暦」連載中）が司会を務めて進行しました。この俳句イベントは、観客の皆さんに事前に出してもらった俳句作品に投票し、批評し合うものです。今回の題は「秋刀魚」で、次の俳句が選ばれました。

【山田賞】古伊万里に大葉を添えてさんま缶

【堀本賞】過去持たぬ女の顔で焼く秋刀魚

【月岡賞】秋刀魚売る女や声の塩辛き

また、16日夜には会場を滝川に移して、太郎吉蔵で「俳句バー」を行いました。バーということでドリンクを飲みながらの句会で、「俳句ガーデン」と同じホスト・ゲスト・司会で、同じ形式で行いました。参加者は地元の方に限らず学生の参加も多く、会場は大変盛り上がっていました。滝川での題は「秋桜」で、次の俳句が選ばれました。

【山田賞】面会日コスモス揺れて母嘆き

【堀本賞】コスモス園抜け出でて子は揺れやまず

【月岡賞】狛犬にふぐりや秋桜の村社

國學院大學久我山中学生が来滝

アイヌ文化に関心深める

東京の國學院大學久我山中学生のアイヌ文化体験が9月3日、本学402教室で行われました。アイヌの方々が来られて、アイヌの挨拶やムックリという楽器の使い方を、生徒たちに直接指導していました。

生徒たちは全員ムックリに興味津々の様子で、会場は盛り上がっていました。アイヌの方々が鳴らすムックリの音は、まるでばねが跳ねるような音が鳴り、よく弾む音色でした。

生徒全員にムックリが渡され、アイヌの方々が生徒個人個人に直接指導する場面が見られました。生徒たちがムックリを鳴らすことはかなり難しい様子でした。

ほかには、アイヌのチセという笹葺の家の見学がありました。チセの中には中心に囲炉裏があり、生徒たちはその囲炉裏を囲むようにして座り、本学の職員からチセでの暮らしについて説明を受けていました。チセの中は方角によって何処に何を置くか決まっていたり、東は父親しか座れないなど、方角による位置が重要な意味を持つようでした。生徒の中には屋根の隙間から入る光が綺麗だと言う人もいました。

今回行われたアイヌ文化体験によって、アイヌへの関心を高めた生徒は多かったと思います。こうした活動を通して、アイヌ文化に触れることは貴重な体験だと思います。（国文学科1年／佐藤誠也）

―教育実習を体験して―

言葉遣いの大切さを実感

私は、今年5月14日から6月1日まで、滝川市立江陵中学校で教育実習をさせていただきました。

教育実習に当たって、私は単に教科を教える技術を学んだり、学級づくりを見たりするだけでなく、生徒一人ひとりとコミュニケーションを積極的にとることを意識していきたいと考えていました。特に、言葉遣いが乱れたり不適切になったりしないよう、十分気をつけて教壇に立とうと思っていました。

しかし、実際には焦った時に普段の言葉遣いになってしまったり、休み時間や放課後に話すときは少し緊張感が薄れ、言葉遣いが乱れてしまうこともありました。

このような状況の時、教職の授業で「緊張すると日頃の言葉遣いがでてしまうから、普段から気をつけるように」と指導いただいたことを思い出し、直そうと思いましたが、実際は言葉遣いというものすぐには直せるものではないということを実感しました。

教育実習を終えて思うことは、常に正しい言葉遣いを心がけることにより、自分の発した言葉に責任をもち、自分の言葉を改善することはできるということでした。言葉に出した後に気付いても遅いのですが、今後気をつけようという意識を持ちました。

実習を通して一番感じたことは、仕事など大事な場面での切り替えを常に意識しながら、言葉遣いに気をつけることでした。学生時代にも例えばアルバイト中やインターンシップでの体験時など、言葉遣いが大事な場面は多くあります。

教育実習では、教師としての仕事を学べただけでなく、言葉遣いなどの社会人としての基本的な礼儀が重要であることを学ぶことができたように思いました。

滝川市立江陵中学校の校長先生をはじめ、日常的にご指導いただきました諸先生方には本当に多くのご示唆を賜りました。また、生徒の皆さんには多くの話ができたことを感謝しています。ありがとうございました。（総合教養学科2年／井上瑚晴）

子どもたちの笑顔が力に

8月20日から9月10日まで、滝川市立滝川第一小学校で教育実習をさせていただきました。子どもたちと仲良くできるだろうか」「きちんとやり抜くことができるだろうか」と不安でいっぱいでした。

しかし、第一小学校の児童の皆さんは初めて会う私にもたくさん声をかけてくれて、毎日のように子どもたちと鬼ごっこをして遊びました。配属学級の子どもたちだけでなく、他学年の子どもたちもいました。とにかくみんな元気いっぱいで、優しい子ばかり。すぐに仲良くなることができました。

子どもたちとの関わり方や授業づくりについてわからないことや戸惑うこともありましたが、指導教諭の先生が親身に相談に乗ってくださり、子どもたちと一緒に成長していけるような教育の在り方について学ぶことができました。授業準備が忙しくなると、子どもと一緒に遊ぶことのできる時間は少しずつ短くなってしまいましたが、それでもできる限りの時間を子どもたちと過ごしました。

このように良い関係を築けたことで、私が実際に授業を行うようになってもよく発言してくれたり、真剣に取り組んでくれたりしました。そして子どもたちが私の授業を楽しみにしてくれていたことがなによりも励みになりました。子どもたちのむけてくれる笑顔がなによりも大きな力になりました。

3週間という短い期間でしたが、先生方にご指導いただいたことも、子どもたちと過ごした日々も、この先ずっと忘れることはありません。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／西彩伽）

初心と反省を忘れずに成長

幼稚園実習は、今まで勉強したことや今までの生き方などあらゆる意味で、自分の力を試す場所となりました。また、慣れない場所での実習だったので、大変緊張しました。

そして子どもたちとの触れ合いの中で、とても貴重な経験をさせていただきました。子どもたちと深くかかわり合い、働きかけるためには、保育者の物事への考え方がしっかりしていないと、子どもを指導することが出来ません。

私は、この実習で保育の大変さ・難しさを感じるとともに、また子ども達と接する楽しさや喜びも感じました。そんな子ども達の笑顔を見ると、改めて保育の魅力ややりがいを再認識することができました。

現場では、思っていた事など全てにおいて子ども達の前では通用しなかったり、上手くいかなかった事が多くありましたが、保育後の反省会で、沢山のアドバイスをして頂いたり、私が不安に思っている事に対して相談に乗って頂いたりすることで、不安が解消され自信をつける事ができました。忙しい中で優しく丁寧にご指導して頂き、すべての先生方にとても感謝しています。

実習ではたくさんの反省がありました。しかし、反省から学んだことがたくさんあり、これをマイナスに捉えず、学んでいく事で成長することができ、今後の自信へと繋がると考えています。あと半年で卒業・就職を迎えますが、これまでの経験を生かし、常に初心と反省を忘れず、成長し続けられる保育者になりたいと思います。（幼児・児童教育学科幼児保育コース2年／小田有加）

ふるさと自慢

五稜郭タワーから見る絶景がおすすめ

＝北海道函館市＝

私の故郷、函館市は道南ナンバー1の観光都市と言われています。函館山から見る夜景は特に有名です。函館には景色が美しいところがいっぱいありますが、特に自慢したい所は五稜郭公園です。春になればソメイヨシノが咲く公園は、花見をする人で埋め尽くされます。

その五稜郭を上から眺めることができる五稜郭タワーも人気のあるスポットです。五稜郭に来たら是非、五稜郭タワーに行くのを勧めます。タワーから見下ろす景色はとても見晴らしがよく、感動すること間違いありません。

五稜郭の中央は、幕末の名残のある砲台や、函館奉行所が再現されています。また、五稜郭公園の近辺には函館市中央図書館があります。図書館には函館の歴史関連の本や地図、函館にゆかりのある石川啄木関連のコレクション「啄木文庫」も所蔵するなど、資料が豊富です。

このほか、ハンバーガーショップで人気の「ラッキーピエロ」など函館の魅力は尽きません。函館市に是非、来てみてください。（国文学科1年／佐藤誠也）

子育てサロン「ありす」

子育て中のお父さん、お母さん、お子さんのための広場です。

お子さんを連れて、気軽に遊びに来て下さい。

対象者　おおむね０～４歳未満の子どもとその家族
参加料　１家庭あたり100円（保険料を含む）
申し込み　開催日の前日15:00まで（先着30人）

開催日　10月18日(木)
テーマ：ハローウィンパーティー